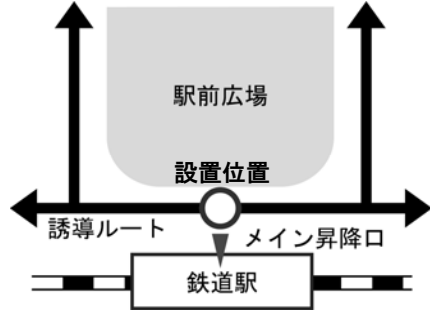
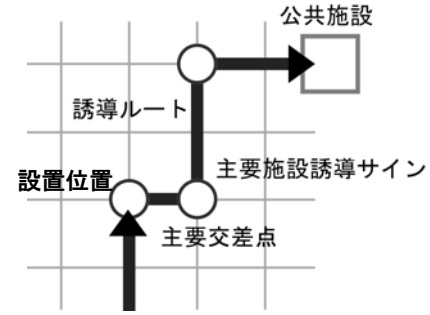
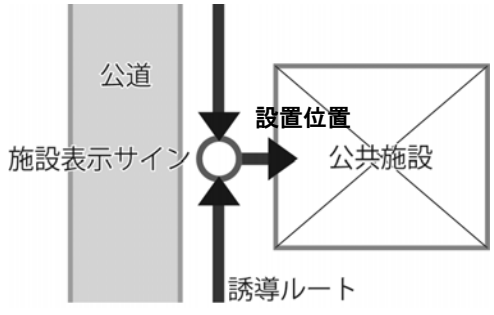
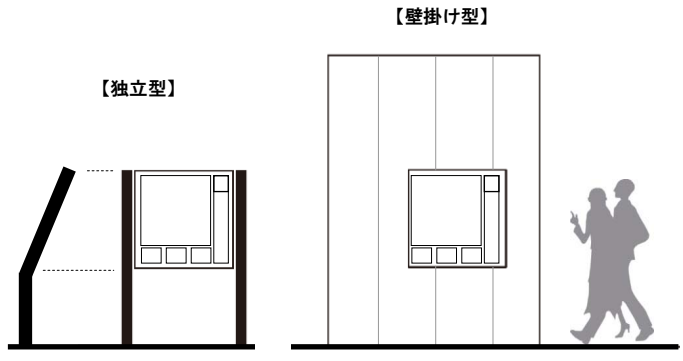
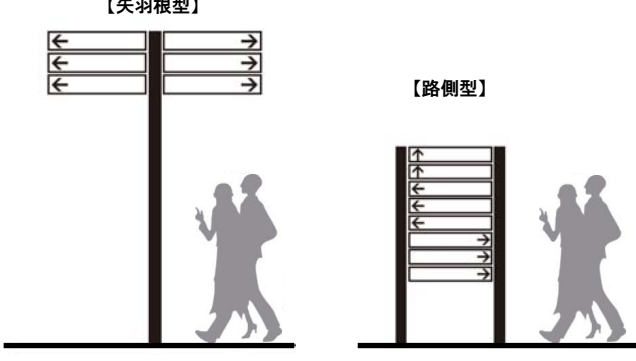
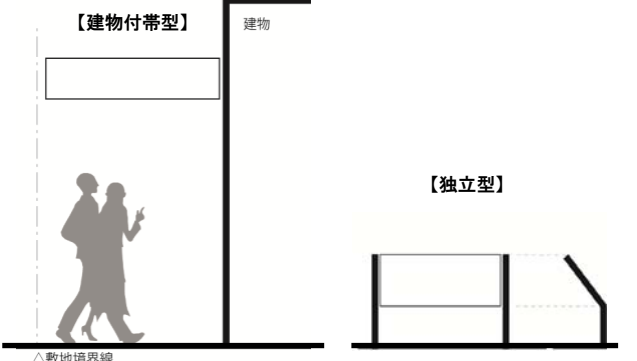


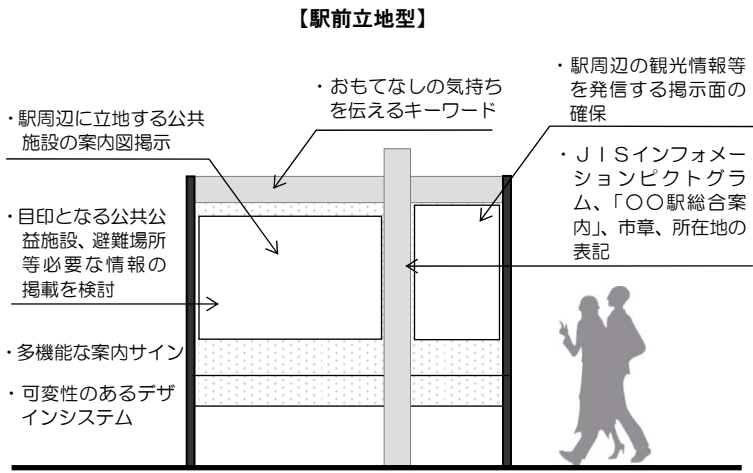

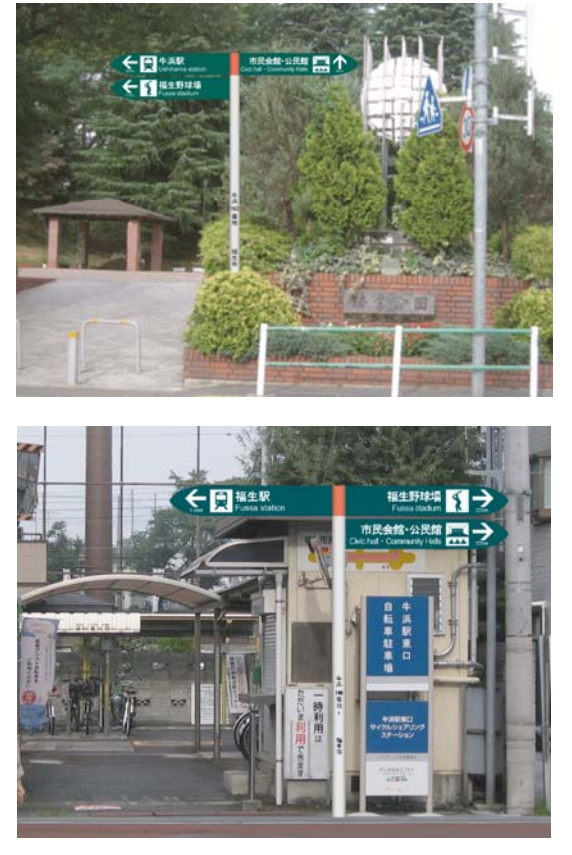


◆表ーサイン整備方針の概要まとめ

公共サイン整備の基本的考え方		①だれもが安全・安心して移動できる公共サインの整備 ⇒【ユニバーサルデザイン、シンプルで見やすいサイン、見つけやすく邪魔にならない配置】 ②思いやり・おもてなしの心を大切にした、公共サインの整備 ⇒【必要な場所に効果的に配置、正確に必要な情報掲載、子どもから高齢者、外国人にもわかりやすく】 ③景観に配慮し、福生らしさ、地域の個性が感じられる公共サインの整備 ⇒【景観や周辺環境に配慮、シンプルで統一性・連続性あるデザイン、福生らしさを感じる工夫】			
サインの種別		案内サイン	誘導サイン	位置サイン	
目的		■鉄道駅を中心に主要公共施設や観光資源等を案内	■市街地内の主要公共施設へのスムーズな誘導	■公共施設や市内の主要拠点を基本に、施設の名称を表示	
配置・設置基準	配置の原則	・駅前や主要市街地幹線道路交差点など動線の結節点に配置	・誘導対象施設へ向かうルート上の主要な交差点（分岐点）で、歩行者の円滑な移動を妨げない位置に配置	・誘導する公共施設の名称を当該施設敷地内で出入口付近に配置	
	配置パターンイメージ				
	高さ	・表示面の高さの中心は、床面から 1.25m 程度	・表示面下端の高さは、原則として路面から 2.5m 以上 ・設置場所等の状況により安全の範囲内で表示面下端の高さを設定可	・誘導サインに準ずる	
	構造	・移動空間を十分に確保。安全性確保を第一に、コスト抑制に配慮 ・案内サインは低い視線への配慮と足下に蹴込み空間。表面加工処理などの対策 ・サイン表示板の基本形状は四角形を原則。誘導サインは福生らしい公共サインとするため別途検討。必要な情報のみを的確に伝達できるシンプルなデザイン			
	デザイン	・原則として独立板型 ・利用者が無理な姿勢をせずに全面が確認できる形態 ・地図面下方のゆとりやすき間を取るなど配慮 	・視認性の高い矢羽根型を原則 ・必要に応じ路側型 ・景観と調和するシンプルなもの 	・横設置を基本 ・建物付帯型では安全性に、独立型では見やすさに配慮 ・施設デザイン、周辺景観との調和に配慮 	
表示基準	書体	・和文、英文とも書体を統一 →和文：ゴシック系を標準 →英文、数字：サンセリフ系を標準 →文章：明朝系を原則 【標準書体】 HGPゴシックE 福生市役所 ヘルベチカM Fussa City Hall ABCD fghijk 1234 /,			
	文字の大きさ	・文字高：和文 9 mm 以上、英文 7 mm 以上を原則	・文字高：和文 60 mm 以上、英文 36 mm 以上を原則	・文字高：和文 80 mm 以上、英文 60 mm 以上を原則	
	色彩	・高齢者や色覚異常の方などが判別、認識困難な色の組合せを用いない ・明度差はできる限り 5 以上 ・高齢者や視覚障害のある方に配慮。案内図の公園、河川等は違和感なく自然に見える色彩を使用 【使用しない配色例】 			
	言語表示	・日本語と英語の二カ国語表示を原則。必要に応じ日本語、英語のほか多言語表記 ・日本語表記：誘導サインでは必要に応じ施設名を統一して簡略化。一貫した数字の表記 ・英語表記：固有名詞はヘボン式ローマ字。普通名詞は英語で表記。慣用上固有名詞と普通名詞に切り離せない場合は、普通名詞も含めローマ字表記とし、必要に応じ英文を付記			
	ピクトグラム	・ピクトグラム（案内用図記号）を活用。原則として J I S 案内用図記号を使用。 ・必要に応じ独自のピクトグラムの開発を検討。  【JISピクトグラム例】 【オリジナルピクトグラム例】	矢印 ・視認性の高いシンプルな形状。折れ矢印は原則使用しない	距離表示 ・誘導サインには目的施設までの距離を併記	案内図表示 ・案内図の向きはサインに向かって前方を上として設置。現在地マークを原則案内図の中央に赤色で表示。種類に応じた適切な縮尺。方位、スケール、インフォメーションマークを表示。バリアフリー情報を表示。
			所在地表示 ・所在地の所在地及び管理者名等を記載		

※ここに示す内容については「福生市公共サイン整備方針」の内容を簡潔にまとめたものです。

福生らしい公共サイン整備の基本的考え方		着目点1:「福生市まちづくり景観基本計画」における3つの景観ゾーン ⇒【景観まちづくりと一体となった福生らしい公共サインの整備】 着目点2:「ふっさ十景」、「玉川上水散策コース」など特徴ある資源 ⇒【福生市の個性を周知・PRする公共サインの整備】 着目点3:「外に出て歩きたくなる」まちづくり ⇒【安心して気軽に出かけられる環境づくりに寄与する公共サインの整備】		
ゾーンカラー	・福生市まちづくり景観基本計画における各ゾーンの景観特性を踏まえ設定 ・景観的に調和しやすく落ち着いた彩度を有する「日本の伝統色」から抽出	丘の手ゾーン⇒紺碧 イメージ: 台地に広がる紺碧の空 選定色: 紺碧	街の手ゾーン⇒朱色 イメージ: にぎわい、ふれあいを感じる朱色 選定色: 朱色	川の手ゾーン⇒深緑 イメージ: 水辺に連なる深い緑 選定色: 深緑
	基本方針	・豊かな自然環境に恵まれた本市の環境との共生をイメージし、また、景観的な配慮を念頭に「緑」をデザインの基調とする ・福生市の伝統的行事として多くの市民に認知されている「福生七夕まつり」についても福生らしさを表現するモチーフとする ・上記2つの福生らしさをデザイン化するにあたり、「笹竹」をモチーフとする ・誘導サインと案内サインにおいては、「丘の手」、「街の手」、「川の手」の各景観ゾーンを意識づけるため、支柱頂部に各ゾーンカラーを配置する ・来訪者等が現在置を確認でき、かつ緊急連絡時においても現在地を確認できるように、所在地表示を支柱面に記載する		
福生らしい公共サインの整備	デザイン方針	案内サイン[駅前案内サイン] ・原則として独立板型 ・言語表記等の表示方法、設置の高さ等の配置・構造については、特別仕様 ・「福生七夕まつり」をモチーフとしたデザインを採用 ・固定的な部材ではなく、可変性のあるデザインシステムを検討 ・「福生七夕まつり」の竹をイメージさせる色彩を採用。ただし、全てを同色とするものではない ・次の各情報を機能的に分離して表示 a. 駅周辺の情報を示す案内図 b. 案内図に関連する施設情報(写真等掲載) c. 駅周辺の観光情報 ・基本的な地図情報のほか、目印となる公共施設や避難場所の図示及びその他必要な情報の表示を検討 ・おもてなしの気持ちを伝えるキーワードを記載 ・JISインフォメーションピクトグラム、「〇〇駅総合案内」、市章、所在地(設置場所の地番)を支柱に表記 ・言語表示は日本語、英語に2言語(中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語のうち必要な外国語)を加え、4言語	誘導サイン ・表示板: 笹葉形 ・表記: 公共施設名は原則日本語と英語の二言語 日本語は<ゴシック系>、英語は<サンセリフ系、ヘボン式> ・ピクトグラム: JIS案内用図記号を基本に必要な応じてオリジナルピクトグラムを作成 ・その他: 矢印表示、距離表示 ・地色: 常盤色、文字・ピクトグラム等: 白ぬき ・支柱: 多様な景観と調和するグレー系を基本とする ・支柱頂部: ゾーンカラーを配置 ・支柱面: 1) 所在地表示 2) 設置管理者を表記	位置サイン ※位置サインについては、設置される施設とのデザイン関連性が強いいため、詳細については基本方針を踏まえつつ適宜検討するものとする。
		【駅前立地型】  <ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の観光情報等を発信する掲示面の確保 JISインフォメーションピクトグラム、「〇〇駅総合案内」、市章、所在地の表記 駅周辺の観光情報等を発信する掲示面の確保 おもてなしの気持ちを伝えるキーワード 駅周辺の観光情報等を発信する掲示面の確保 	【誘導サインデザインイメージ】(参考例)  <p>※ここに示したデザイン参考例は本方針を踏まえ作成したもので実際に整備するものとは異なります。</p>	【誘導サイン設置イメージモニタージュ】(参考)  <p>※ここに示したモニタージュは、スケール感等を把握するため作成したもので、実際の設置場所やデザイン等を示したものではありません。</p>

※ここに示す内容については「福生市公共サイン整備方針」の内容を簡潔にまとめたものです。